

悲しい昔話⑤ 月光仮面と仮面ライダー

昭和30年代、私も小学生でした。町のあちこちに子どもたちの姿があり、遊ぶ声がいっつも聞こえてきました。当時、いなかの町や村にも映画館がいくつかありました。時々子ども向けのものもやってきましたが、私はお小遣いがもらえなくて悔しい思いをしました。登下校の道沿いの電柱に貼られている映画のポスターを恨めしく思ったものです。

それでも、「月光仮面^{げっこうかめん}」だけは何回かのシリーズのうち1回だけ町の映画館で観ることができました。『みんな観るから』という親を説得する時の常套手段^{じょうとう}を使って小遣いをもったのです。

♪ どーこのだーれかはしーらないけれど ♪

映画館を出たときは子どもたちはみんな月光仮面になっていました。そして、家に帰れば風呂敷を首に巻いて自転車に乗った月光仮面が町のあちこちに現れました。私もその一人でした。

ただ、恥ずかしいことに友だちはみんな中学校へ入学とともに月光仮面を卒業したというのに、私だけは大学生になってもこの月光仮面から抜け出せませんでした。



というのは、オートバイに乗ってどこからともなくやってくる映画の中の月光仮面のおじさんは、ホンダのドリームC70という当時最新の大型バイクを白に塗ったものに乗っていたのです。

大学3年の時、運命的にこれと同じ型式を中古バイク屋さんで見つけました。バイク好きで自動二輪(現在の大型二輪)の免許を既に持っていた私はためらうことなく(親に内緒で)この大型バイクを買い求めました。学生生活は極貧でしたが、生活費に優先して月光仮面を選んでしまったのです。

さすがにバイクを白には塗りませんでしたけど、ヨレヨレのコートをマント代わりにしてどこからともなく現れてどこへともなく消えていく月光仮面の貧乏学生でした。

このオートバイには異様なまでの愛着があって、教員になってからもしばらく乗りました。しかし、教え子たちは仮面ライダーの時代でした。キックしないとエンジンのかからないクラシックな大型バイクには子どもたちは全く関心を示しませんでした。

ちなみに当時の仮面ライダーのバイクはホンダDN-01という小型自動車並のエンジンを積んだ超スーパーバイクでした。

これもまた偶然ですが、20年ほど前、知り合いからこのライダーバイクを預かったことがあります。数ヶ月乗りましたがどうしても私は仮面ライダーにはなじみませんでした。私はやはり月光仮面です。月光仮面のおじ(い)さんです。